

新庁舎整備事業市民説明会 2021  
意見交換結果概要（11月19日下米田地区開催分）

○日 時 令和3年11月19日（金）午後7時～8時30分

○会 場 下米田交流センター

○出席者 15人（参加市民）

○内 容

□【質問・意見・提案等】

⇒【回答】

□新庁舎を整備するにあたって、美濃太田駅は公共交通の拠点であり、あい愛バスもあることから交通の便はベスト。美濃太田周辺に整備することに賛成する。美濃太田駅前をどうするのか。

⇒駅前の活性化については考えていくべき課題。市街地再開発事業や中心市街地活性化計画の中で、ソフト事業を含めて今後も検討を進めていく。

□庁舎フロアの一部をデジタル関係の方に貸し出せば、そこに勤務する人が山之上や三和の住居を借りることで新しい人流ができる。ホテルのコンベンション機能も残しておけば、災害時には市職員の仮眠の場にできる。

⇒庁舎建物の構成については、にぎわいの拠点として商業的な機能と現状のコンベンション機能の継続、整備を考えている。将来的に庁舎に勤務する職員が減った場合は、ご提案のフロアの一部を民間に活用いただくことも含めて柔軟な対応をしていきたい。

□説明会が各地区20人限定という理由を知りたい。多くの人に聞いてほしいのであれば、もう少し大きな会場で開催してはどうか。57,000人の人口に対して、対象者が少なすぎる。

⇒新型コロナウイルス感染症への危機感を緩めることなく説明会を開催するため、また、仮にこの説明会で感染者が判明した場合の対処を迅速に行うために20人定員とさせていただいた。この説明会だけではなく、出前講座の開催を今後も継続していくのでぜひご活用いただきたい。

□木曾川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）の浸水は、1000年に1度の確率とあるが、少しでも危険性があるなら、浸水区域の候補地は除外すべき。

⇒浸水した場合に庁舎が防災拠点機能を損なわないこと、そして災害対策本部をしっかりと運用していくことが重要。今は、降雨の予報がかなり早く事前に入手できるため、職員も基本的には事前参集で対応し、地域で避難所を開

設したり、被災状況を確認したりすることになる。木曾川洪水浸水想定区域図の想定最大規模の浸水地域に庁舎を整備した場合も、防災機能は十分に果たしていけると考えている。

□現在の市役所は老朽化しており、新庁舎の建設は大切なこと。サテライト構想については非常に良い発想だと思うが、本庁舎と同等の行政サービスを受ける事が出来るのか。

⇒マイナンバーカードの普及や ICT 技術の発展がますます進むことにより、サテライト拠点で多くの行政手続き等が可能になると考えており、基本的な手続きはサテライト拠点で完結できるようにしたい。

健康面では、保健師が各サテライト拠点に常駐し、健康相談など地域住民の健康増進施策が展開できるようにしたい。防災についても地域のことは地域で守る機能をつくっていききたい。

□新庁舎が建つことによる民間企業の関わりや利益は。

⇒庁舎内に商業的機能を取り入れることで、にぎわいの創出や将来的な税収入にもつながるように検討している。また、市役所に人が集まることで、その周辺に出店する事業者も増え、周辺民間企業の利益も上がると想定している。

⇒市街地再開発事業として、権利者の方々がマンションや商業施設、立体駐車場等、多様な機能を検討している。住む人、働く人、買い物に来る人等にぎわうまちづくりを考えてみえ、市も連携していききたい。

□候補地の比較の中で、駅前に商業施設（再開発事業）ができるという仮定の効果がある。商業施設が倒産するとか、再開発事業の計画が進まないとか、市庁舎だけ残ってしまうことにならないのか。

⇒確かに市場性のある事業というものはリスクがあるが、できる限り様々なリスクを含めて検討し、計画していく。

□市としては大きな事業であるのに、少人数の説明会で良いのか。大規模な新しいまちづくりは大丈夫なのか。新庁舎を建てることで借金が発生すると思うが、その借金を抱えていくのは今の若い世代。

⇒新庁舎整備基本構想では新庁舎をいかしたまちづくりを進めていくことを目指している。将来を担う子どもたちに借金をなるべく残さないため、コスト等5つの項目を比較検討し、駅周辺が最も優位であると評価した。再開発事業には国、県、市からの補助金があり、全て市税で賄うものはない。

□現在の生涯学習センターはどうなるか。

⇒そのまま継続して生涯学習施設として使用する。

□防災面、特に浸水被害について不安である。

⇒昭和58年の9.28災害の後、木曽川沿いにコンクリートの堤防が整備された。

また、数年はかかるが、新丸山ダムが完成するなど、河川整備を継続して進めることで、9.28災害と同規模の災害まで対応が可能になる。想定最大規模といわれる、1000年に一度という浸水に対応する施設をつくることは難しいため、まずは早い情報の発信を進め、市民が逃げることを優先する。また、グラウンドなど今ある施設を活用して効率よく水を溜め、できる限り水が一気に流れ出てこないような対策も進めている。

□来庁者が右往左往することのないように駐車場を整備してほしい。